

	項目	議論のポイント	現状・問題点等
1	教育問題について	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策 ・防災・安全教育の推進 	<p>【いじめ対策】 いじめの問題は、発生件数の多少にかかわらず、命や生き方、人権にかかわる重大な問題であり、学校・教育委員会・関係機関が連携した早期発見、早期対応が求められている。</p> <p>【防災・安全教育の推進】 子どもの命を災害等から守るためには、もしもの時に主体的に行動できる力の育成が求められている。「学校安全計画」に基づいた、防災教育の実施による知識と、適正な避難訓練の積み重ねを通じた行動力の定着が課題となっている。</p>
2	安全・安心のまちづくり(安全・安心条例の制定)について	<ul style="list-style-type: none"> ・本市の安全・安心上の諸問題の解消 ・市民一人ひとりへの安全・安心意識の浸透 ・安全・安心なまち北九州市のアピール(イメージアップ) ・青少年の非行防止について 	<p>平成16年以来、すべての小学校区での防犯パトロールの結成や、通学路での安全点検の実施など、地域、警察、行政が連携して安全・安心に関する様々な取り組みが行われてきた結果、刑法犯認知件数はピーク時の3分の1になるなど着実に改善している。一方で、地域防犯活動の参加者の固定化、高齢化、青少年による非行の発生率及び再犯率が高い水準にあること、暴力団の犯行と思われる市民を対象とした凶悪事件による、本市の治安イメージの悪化、高齢者の交通事故の高い発生率など多くの課題がある。</p>
3	高齢者の支援(総合的な認知症対策の推進)について	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な認知症ケアの充実・強化 ・認知症を正しく理解し支える人材の育成と活動支援 ・認知症高齢者の安全の確保 	<p>高齢化の進展に伴い、誰もが発症する可能性のある認知症への対策は、自治体にとってとても重要なテーマとなっている。</p> <p>平成24年に策定した本市高齢者支援計画では、認知症の予防から早期発見・早期対応、ケアまでの一貫した取り組みを充実させるとともに、認知症に対する地域社会の理解を深め、認知症サポーターなど高齢者と家族を支える人材の育成と活動の支援を図ることとしている。</p>
4	女性の活躍推進について	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる分野における男女共同参画の推進 ・女性の活躍による経済社会の活性化 	<p>平成23年度に実施した「男女共同参画社会に関する調査」では、男女の役割を性別によって固定的に考える固定的役割分担意識が薄れる結果となり、「意識」の面でかなり前進した。しかし一方では、「職場」や「家庭生活」などの多くの分野で、「男女平等とを感じる」という状況には至っていない。仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関しては、言葉の認知度はかなり浸透してきたが、多くの人が仕事と家庭の調和が取れていると感じる状況にまでは至っていない。</p> <p>また、社会の様々な分野において、意思決定過程への女性の参画がまだまだ十分ではない。</p> <p>今後とも、継続的かつ効果的な広報啓発や企業・働く人・市民・行政が一体となった活動に取り組み、女性の活躍を、本市・我が国の成長の原動力としていく必要がある。</p>
5	人口の見通しとにぎわいづくりの推進について	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の推移、今後の人口の見通し ・にぎわいづくりの推進・交流人口の増加について 	<p>【人口の推移、見通し】 本市の人口について、ここ5年間の自然動態は、出生数の減少や死亡者数の増加により、平均で年間約2,000人の減少となっており、少子高齢化の進展によりこの傾向は今後も続くと思われる。一方、本市の社会動態は、減少傾向が続いているが、ここ5年間の平均は年間1,000人前後の減少となっており、減少幅は縮小してきている。</p> <p>【にぎわいづくりの推進、交流人口の増加】 にぎわいづくりの推進や交流人口を増やすには、B-1グランプリなどのビックイベントの実施や、将来的には新球技場などを活用した若者が集まるにぎわいづくりの仕組みづくりなどについても考える必要がある。</p>